日本アンテナ

取扱説明書・施工説明書

屋内型光受信機

Model NOEA726

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工をおこなってください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

Model
NOEA726

目　次

取扱上のご注意

取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

いつでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

情報通信が仕事です。

日本アンテナ株式会社

本社／〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03)3893-5221(大代)

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D842043000　平成19年10月

安全上のご注意

絵表示について　この「安全上のご注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示	意味
危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

絵表示	説明
△	△記号は注意（注意・警告・危険を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
⃠	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
●	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

危険

●光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

警告

●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いてご使用ください。

●本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

●万一、本器を落としたり、破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●本器の上面カバー（接続端子部カバーは除く）をはずしたり、本器を改造したりしないでください。
また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

●万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

●万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
（特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。）

注意

●本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。

●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

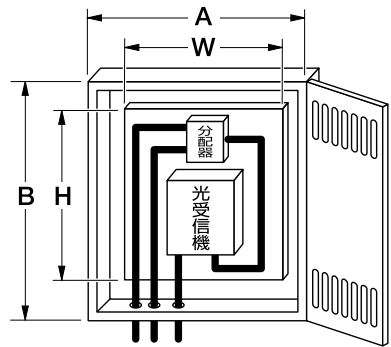
●湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所（調理台や加湿器のそば）に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

廃棄上のご注意

本器のすべて、または部品を廃棄する場合には、自治体の定めた条例にしたがって処理してください。

収納箱への設置

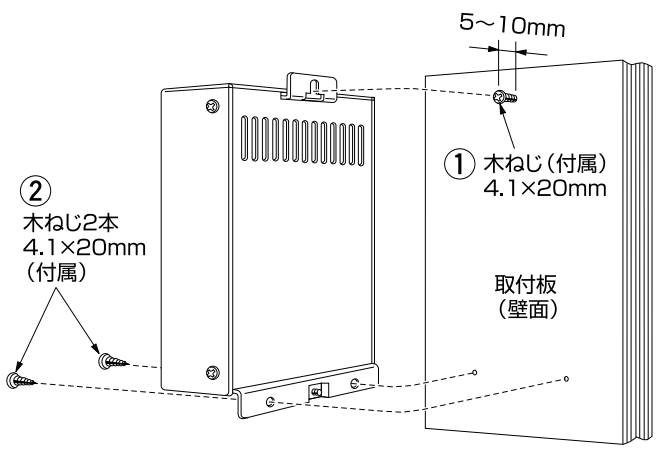
●収納箱に入れて使用する場合は、上下に防虫網付きの換気孔などのある収納箱で、下記寸法例の大きさのものを使用し、温度管理に十分注意してください。また、光受信機は収納箱の最上部を避け、換気孔より下側の位置に設置してください。

●推奨鉄箱（木板）寸法例　単位：mm

タイプ	箱 A	箱 B	木板 W	木板 H	種別
1	700	700	600	600	本器 1台 4分配器1個
2	1000	500	900	400	
3	500	1000	400	900	

※収納箱の奥行は140mm以上のものをご使用ください。

取付方法

①付属の木ねじで本体上部を固定してください。

②上部を止めた後、本体下部を付属の木ねじ2本でしっかりと固定してください。

本器は図のように必ず縦方向に取付けてください。
指定外の取付けでは十分な放熱がおこなわれず、機器の故障の原因となります。

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法（別売品）

◆用意するもの

カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称

●アルミ箔付同軸ケーブル（FB型）の場合、アルミ箔は絶縁体と同様に加工してください。

❶ カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1㎜程度）

外被をむく　14㎜

❷ 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

❸ 外被から2㎜程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。

❹ 編組線をめくりあげます。

❺ 編組線から3㎜はなして絶縁体を切り、抜きとります。

❻ F型接栓を絶縁体（アルミ箔）と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。

❼ 芯線の先端は1～2㎜出し、斜めにカットしてください。

芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。

芯線は斜めにカットすると挿入しやすい

ポイント

- ●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線と編組線が接触していないかを確認してください。
- ●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合は、きれいにとってください。
- ●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）

●F型接栓締付トルク　2.0N・m（約20kgf・cm）

⚠注意　加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

操作方法

⚠注意

- ●光送信機の光出力端子、光送信機に接続した光コネクターからは、不可視レーザー光が放射しています。目を傷つける場合がありますので絶対に覗き込まないでください。
- ●光コネクターを接続する際は、コネクター端面を専用クリーナー、またはアルコールで良く清掃してから接続してください。
- ●使用する光コネクターの形状はSC型、研磨はUPC研磨のものをご使用ください。その他のものを使用の場合、機器を破損する場合があります。

①光伝送路の光コネクター（SC-UPC）を光パワーメーターに接続して、受信機の規定レベル内（標準性能表をご参照ください。）となるように、光アッテネーターを挿入して調整後、受信機の光入力端子に接続してください。

⚠注意　受信機の規定光入力レベル範囲を外れたレベルを入力しないでください。機器の破損または性能の低下となる場合があります。

②RF出力モニター端子でRFレベルを見ながら、指定のレベルになるように出力調整ボリューム、チルト調整ボリュームで調整してください。出力調整ボリュームは、工場出荷時に光入力レベル（0dBm）に標準の出力レベルになるよう調整してあります。

レベル調整時のご注意

●利得調整等のボリュームのツマミは、径φ6mm以下のマイナスドライバーあるいは、調整用ドライバーを使用し、軽く回る範囲内で回してください。無理に回したり、押しつけると機器の故障の原因となります。

●ボリュームの寸法

特　長

1. 本器は高層ビルなどの共聴システムやCATV、電波障害対策などでご使用いただける光伝送機器です。
2. 伝送帯域は、CATV帯（70～770MHz）、BS・CS-IF帯（950～2602MHz）と広帯域での伝送が可能です。
3. 従来の同軸伝送では困難だったBS・CS-IF帯の長距離伝送が、容易に伝送可能になりました。
4. 各帯域とも、チルト、出力レベル調整が付いていますので、レベル調整が容易におこなえます。
5. 出力モニター端子が付いていますので、保守、管理が容易におこなえます。

各部の名称および機能

●NOEA726

①	CATVチルト調整	0～−3dB（70MHz）のチルト調整ができます。
②	CATV出力レベル調整	CATV帯域の出力レベルを0～−8dB調整できます。
⚠注意	出力レベル調整ボリュームは、工場出荷時に標準の出力レベルになるように調整してあります。	
③	BS・CSチルト調整	0～−3dB（950MHz）のチルト調整ができます。
④	BS・CS出力レベル調整	BS・CS帯域の出力レベルを0～−8dB調整できます。
⚠注意	出力レベル調整ボリュームは、工場出荷時に標準の出力レベルになるように調整してあります。	
⑤	パイロットランプ	電源を入れるとパイロットランプが点灯します。
⑥	アラームランプ	光入力レベルが+3dBm以上、または−20dBm以下になった時、点灯します。
⑦	出力レベルモニター	出力端子のレベルより、20dB低い値を出力します。
⑧	出力端子	RF信号を出力します。
⑨	光入力端子	光入力レベルを−2dBm～+2dBmの範囲で入力してください。
⚠注意	使用された光コネクタはSC型、UPC研磨のものを必ずご使用ください。	
⑩	電源コード	AC100V入力です。
⑪	ヒューズ（定格1.25A）	ヒューズを溶断した場合は、原因を取り除いてから、予備ヒューズと交換してください。
⚠注意	必ず指定されたヒューズ（タイムラグヒューズ）をご使用ください。	
⑫	アース端子	アース線は、φ1.6～2.0mmの被覆銅線で完全に接地してください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因になることがあります。

性能規格

●NOEA726

	項　　目		性　　能		備　考
	周波数帯域	(MHz)	70〜770	950〜2602	
	伝送波数		アナログ：57波 デジタル：40波	36波	
光特性	光入力レベル	(dBm)	−2〜+2		
光特性	光波長	(nm)	1550±10		
光特性	光コネクター		SC-UPC		
光特性	光コネクター反射減衰量	(dB)	40以上		
光特性	光伝送損失（最大）	(dB)	12		ファイバー長 5km
電気特性	RF出力レベル	(dBμV)	84	83	※1 ※2
電気特性	出力レベル調整範囲	(dB)	0〜−8		
電気特性	スロープ調整範囲	(dB)	0〜−3以上（70MHz）	0〜−3以上（950MHz）	
電気特性	帯域内周波数特性	(dB)	4以内	6以内	※1
電気特性	出力インピーダンス	(Ω)	75		F型
電気特性	出力VSWR		2.5以下		
電気特性	出力モニター結合量	(dB)	−20±2以内	−20±2.5以内	
電気特性	C／N	(dB)	48以上	29以上	※1
電気特性	CSO	(dB)	−60以下	——	※1
電気特性	CTB	(dB)	−63以下	——	※1
電気特性	IM2	(dB)	——	−31以下	※1
電気特性	IM3	(dB)	——	−66以下	※1
電気特性	ハム変調	(dB)	−60以下		
	ALM LED		光入力断、または+3dBm以上で点灯		
	不要放射	(dBμV/m)	34以下		3m法による
	使用温度範囲	(℃)	−10〜+40		本体周囲温度
	電源電圧	(V)	AC100（50／60Hz）		
	消費電力	(W)	16以下		
	耐雷性	(kV)	±15（1.2／50μs）		
	外形寸法	(mm)	177（幅）×254（高さ）×51.5（奥行）		
	質量	(kg)	約1.5		

※1　弊社光受信機（HEO5726）との対向性能
※2　CATV帯域は、アナログに対してデジタル−10dB運用

●C／N帯域換算
70〜770MHz : 4MHz
950〜2602MHz : 28.9MHz
●使用光ファイバー
1.31μmシングルモード光ファイバー
●弊社測定系による

施工説明書

設置場所・条件

●水中や雨水のかかる場所、高温（40℃以上）の場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
●光受信機は発熱しますので、熱のこもる場所はさけ、通風のある場所に設置してください。
●電気配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
●放熱のため、同軸ケーブルの引き回しにより換気孔を塞がないよう、ゆとりある収納箱に設置してください。
●メンテナンスに容易な場所を選定してください。

光コネクターの接続

■光ファイバー、光コネクター取扱い上の注意

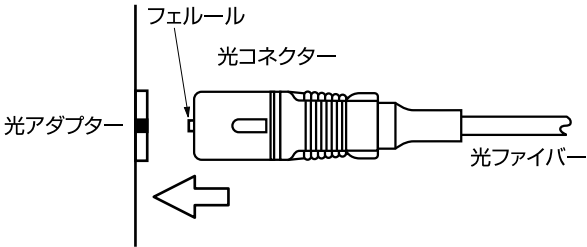
光ファイバー、光コネクターを取扱う場合は、専門の施工業者がおこない、以下に記載する内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。断線・損傷・特性劣化の原因となります。

光ファイバー

①光ファイバーのビームは絶対にのぞき込まないでください。
②取扱うファイバーの許容曲げ半径をご確認ください。
③ファイバーによじりなどのストレスを極力かけないようにしてください。
④ファイバーを強く引っ張らないでください。
⑤ファイバーの余長収納時、フタなどに挟まらないように細心の注意をはらって配線してください。

光コネクター

①光コネクターは接続毎に、必ずフェルール端面を光コネクター専用クリーナー、またはキムワイプなどにアルコールを浸して、きれいにクリーニングしてから接続してください。
②光コネクターはホコリや汚れに非常に弱いため、汚れた手で取扱わないでください。特にフェルール部分には絶対に触らないでください。
③光コネクターの保護キャップは、接続時以外ははずさないようにしてください。汚れの原因となります。

④指定された光コネクターの種類、研磨方法以外の光コネクターは使用しないでください。
⑤光コネクターを機器に接続する際は、プラグの位置決め用の爪を、光アダプターの溝に合せてまっすぐに挿入してください。絶対に斜めには挿入しないでください。光コネクター、光アダプターの破損の原因となります。
⑥光アダプター内にマッチングオイルなどのグリスがはいらないようにしてください。本機器にはマッチングオイルなどの使用を特に必要としません。
⑦光コネクターを高所から落下させたり、硬い物にぶつけたりしないでください。

 危険　光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

⚠ **注意**　光ファイバーが破損した時は、破片などに手を触れないでください。破片でけがをする恐れがあります。